

口腔診査情報の標準交換規約具体案について

玉川 裕夫^{*1} 勝又 明敏^{*2} 青木 孝文^{*3} 齊藤 孝親^{*4} 鈴木 一郎^{*5} 末瀬 一彦^{*6}

^{*1}大阪大学歯学部附属病院 ^{*2}朝日大学口腔病態医療学講座

^{*3}東北大学大学院情報科学研究科 ^{*4}日本大学松戸歯学部 ^{*5}新潟大学医歯学総合病院

^{*6}大阪歯科大学歯科技工士専門学校

Proposal for practical information nomenclature in dental examination

Tamagawa Hiroo^{*1} Kawamata Akitoshi^{*2} Aoki Takafumi^{*3} Saito Takachika^{*4}

Suzuki Ichiro^{*5} Suese Kazuhiko^{*6}

^{*1}Division of Medical Information, Osaka University Dental Hospital

^{*2}Department of Oral Radiology, Asahi University School of Dentistry

^{*3}Department of Computer and Mathematical Sciences, Graduate School of Information Sciences Tohoku University

^{*4}Department of Social Dentistry, Research Institute of Oral Science Nihon University School of Dentistry at Matsudo

^{*5}Division of Community Health Promotion, Niigata University Medical and Dental Hospital

^{*6}Osaka Dental University School of Dental Technology

The examination of a mouth at the initial diagnosis includes a lot of important keyword, such as identifications at large-scale disasters, practice information backups and data exchanges. We held the workshop in JCMI 2014 in Chiba to discuss this practical information exchange focused on a disaster and subsequent identifications.

After the workshop, the study meeting for standardization in dental practice of Ministry of Health, Labour and Welfare announced the new statement included dental data sets for identification, their definitions, tree structured maps and their correspondence lists to ANSI/ADA1058 data sets.

In this work shop, we push forward this directionality more and we are going to conduct concrete and in detail suggestions adapt to dental initial diagnoses. Two speakers are going to address their research. Professor Toshiaki Katsumata from Japanese Society for Oral and Maxillofacial Radiology will address a method to extract tooth position and tooth name data from dental images. I, the author of this article, from Japanese Society for Dental Practice Administration will address a map for the new nomenclature in dental examination.

Keywords: Dental Examination Practice, Disaster, Data exchange, Back up

1. はじめに

東日本大震災での経験をもとに、死後に得られた歯の情報を身元検索で活用するためには、どのような情報粒度であれば過不足ないかが検討されてきた。また、厚生労働省の「歯科診療情報の標準化に関する検討会」2014年度の報告書では、歯の属性を表す用語に階層構造を与えることで、検索精度が向上すると記載されている²⁾。

しかし、歯科領域の標準化は死後の身元検索だけを目的とするのではなく、生前に診療所を受診したときの活用も視野にいれて行われるべきである。

今回のワークショップでは、日常診療に伴って発生する口腔情報のうち標準化の対象となる基本部分を、仮に「口腔状態のスナップショット」と呼ぶことにする。

図1にその概要を示した。

この口腔状態スナップショットを明確にすることで得られるメリットは大きい。現在標準化されているものが何か、そして今後標準化すべきものが何かを整理する必要がある。同時に、口腔の各種画像から抽出された診療情報をこのスナップショットと組み合わせることで、何が表現できるかを検討したい。

2. 用語体系と現状

図2に、上記の報告書に法歯科医学領域で使うデータ

セット(横幅の大きなノード)として記載されている用語群と今回検討する口腔状態スナップショットと関連を示した。

この図では、横幅の広いノード群が検討済み、逆に横幅の狭いノード群が、今後検討を要する内容である。

3. 用語体系作成の流れ

今回の用語体系作成の流れを図3に示した。

各医療機関では、すでにレセプトコンピュータあるいは電子診療録が導入されており、そこでは各社のマスターファイルが使われている。すなわち、歯科診療を行う医療機関で、現在電子的に蓄積されている口腔情報には、1) オンラインレセプト請求で使われる歯科病名、2) 同じく歯の部位コード、3) 保険診療の行為コード、4) 初診時の口腔状態があり、4) 以外は標準化コードが存在する。

そこで、4) で使われている用語を集約・分析・階層付を行うことで、口腔状態スナップショットを構成する用語を体系付けることができる。

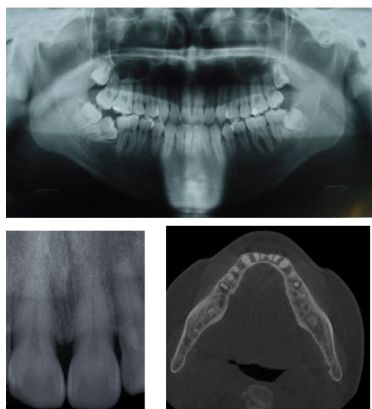
具体的には、口腔状態の変化、診療行為と口腔状態の関連、技工装置、硬組織の状態、軟組織の状態、歯の状態の6領域で構成される。

参考文献

- [1] 厚生労働省 歯科診療情報の標準化に関する検討会.
http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-isei.html?tid=146689.
2013.

- [2] 厚生労働省 第5回歯科診療情報の標準化に関する検討
会資料. http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000076205.html.
2015.

口腔の各種画像



抽出

口腔状態のスナップショット

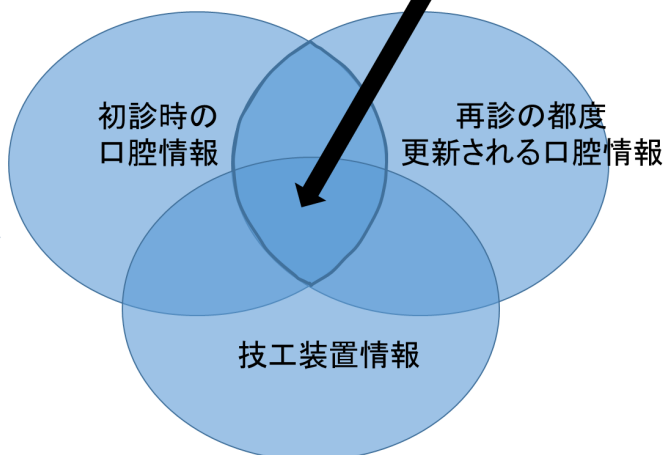


図1 図1:本ワークショップの位置付け
口腔の各種画像から抽出した情報を口腔状態スナップショットと連携

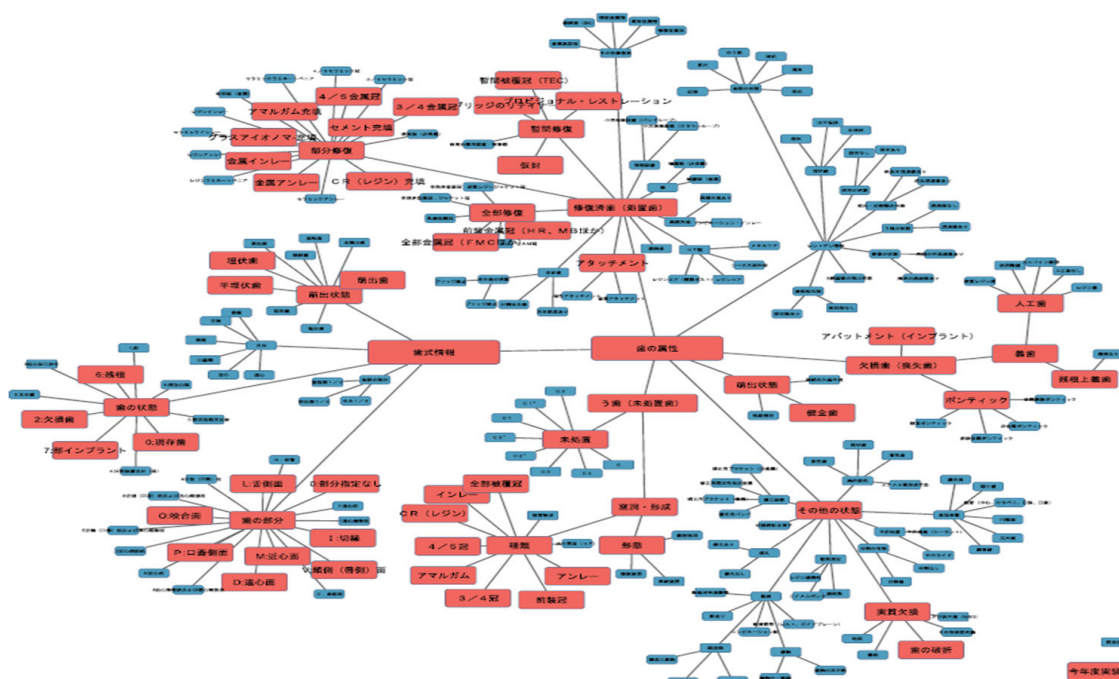


図2 用語体系と整理済データセットの関係
法歯科医学領域の整理済データセット(横幅の大きなノード)と全体像

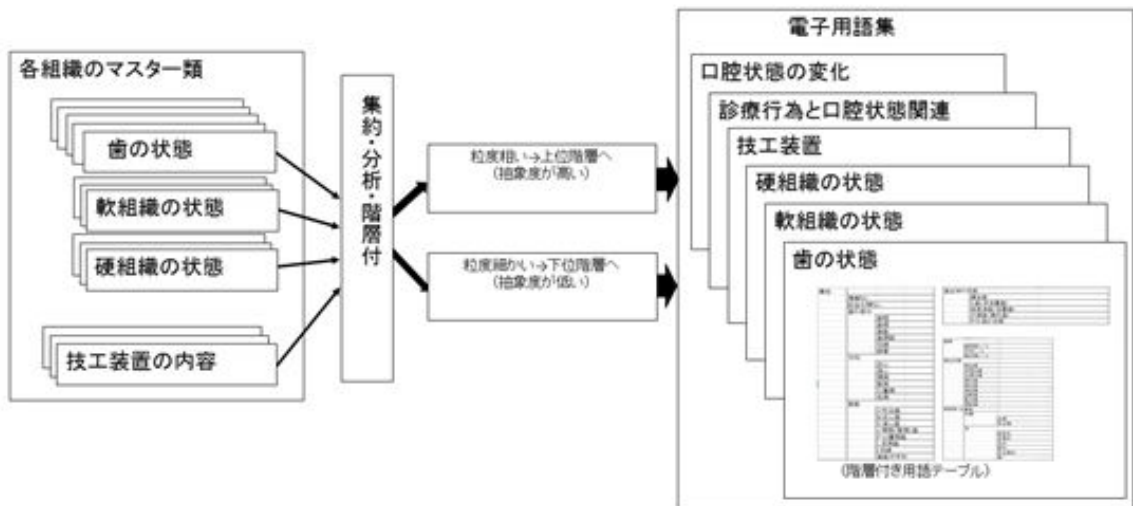


図3 用語体系作成の流れ

各医療機関で使われているマスターを集約・分析・階層付けする

1-G-2 共同企画/1-G-2:共同企画1